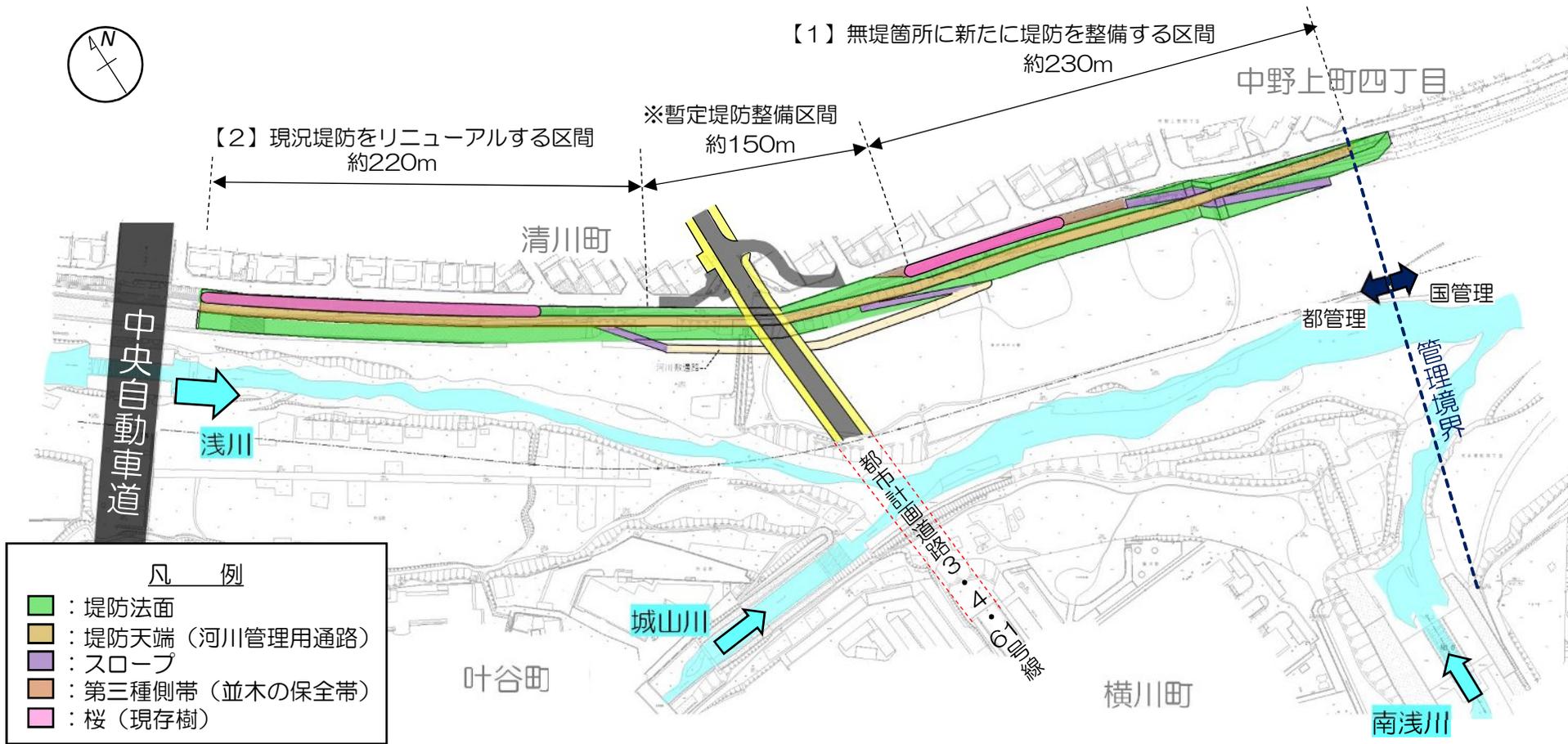


堤防整備事業の紹介（平面図）

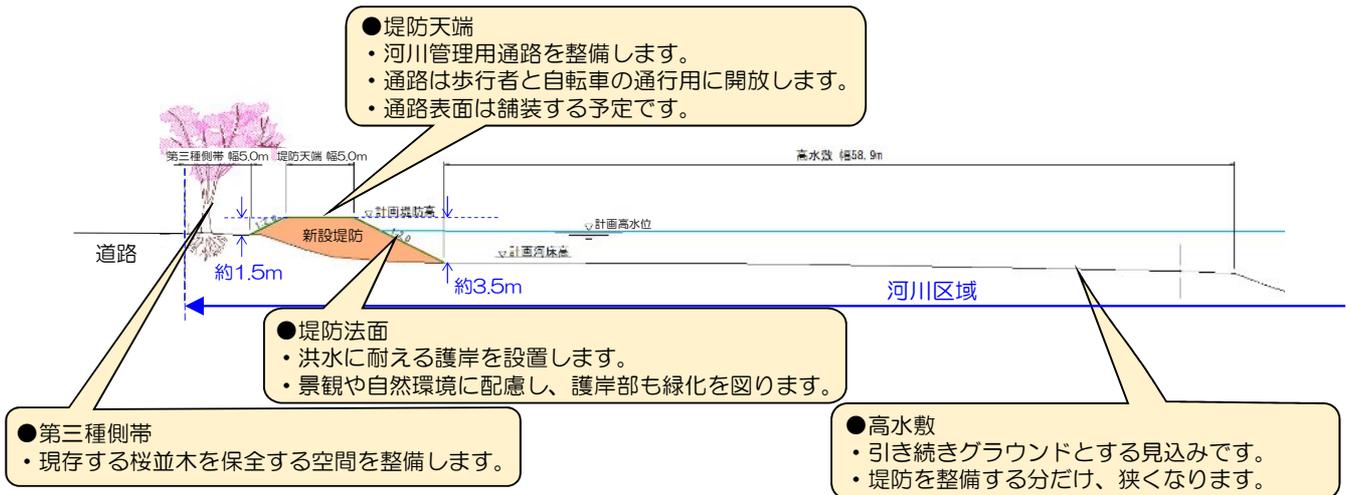


堤防はすべて現況河川区域内（道路より川側）に整備します。

※暫定堤防整備区間は、都市計画道路3・4・61号線の工事前に暫定堤防を整備し、八王子市による橋梁整備時に本設堤防を設置する区間です。
 ※都市計画道路3・4・61号線の各施設については、令和4年11月に八王子市が配布した事業概要資料の内容を掲載しています。

堤防整備事業の紹介（横断図①）

【1】無堤箇所新たに堤防を整備する区間



コラム・堤防と桜並木

●各地の堤防に桜並木がある背景は？

諸説ありますが、代表的なものは以下のとおり。

- ・桜の根が堤防を強固なものにすると考えられていた。
- ・桜の見物客が集まり、堤防を踏み固めることにより、堤防が強くなることを期待した。

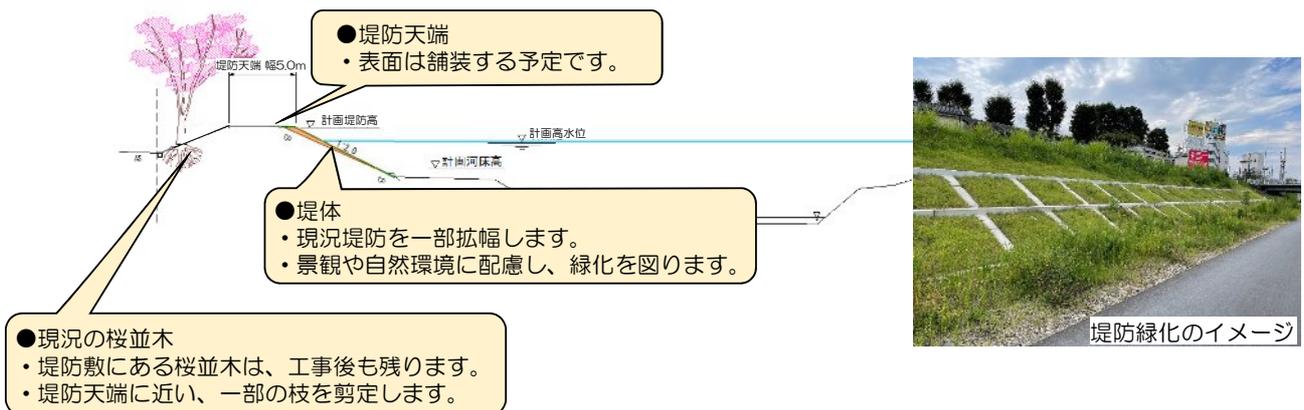
●現代では、過去の災害経験等により、堤防上の植樹は原則として禁止されています。

- ・堤防上の樹木が倒れて、堤防が崩壊した実績があります。
- ・堤防内にある樹木の根に沿って“水の通りみち”ができやすく、堤防の安定性を損なう恐れがあります。

⇒浅川の桜並木を残すためには、新たな堤防沿いに桜並木保全用の空間を設ける必要があります。

堤防整備事業の紹介（横断図②）

【2】現況堤防をリニューアルする区間



コラム・堤防の造り方

●以下の4つの理由から、堤防は土で造ることが基本とされています。

- ①材料（土）の劣化が起きにくく、経年により強度が増していく。
- ②地震等で壊れても復旧が簡単。
- ③工事費用が安く、工期も短い。
- ④材料の取得が容易。

●堤防は計画の高さよりも大きく造ります。

洪水を安全に流すために必要な高さ（＝計画の高さ）のほかに、以下の2点を考慮して造ります。

- ①施工後に土が締め固まる（＝堤防が縮む）ことを考慮し、余分に土を盛ります（余盛という）。
- ②天端から堤防内に雨水が浸み込むことを防ぐ舗装を設けるため、その分だけ高くなります。

堤防整備工事中の河川敷利用

“工事中の堤防”と“工事の作業エリア”は、河川敷（グラウンド）の利用、立入りができません。

※工事に使用する範囲の詳細は検討中ですが、グラウンドとして利用することはできない予定です。

※誤って立入ることのないよう、バリケード等を設置し、工事範囲を明示します。



工事の支障となる公園施設は一時撤去します。

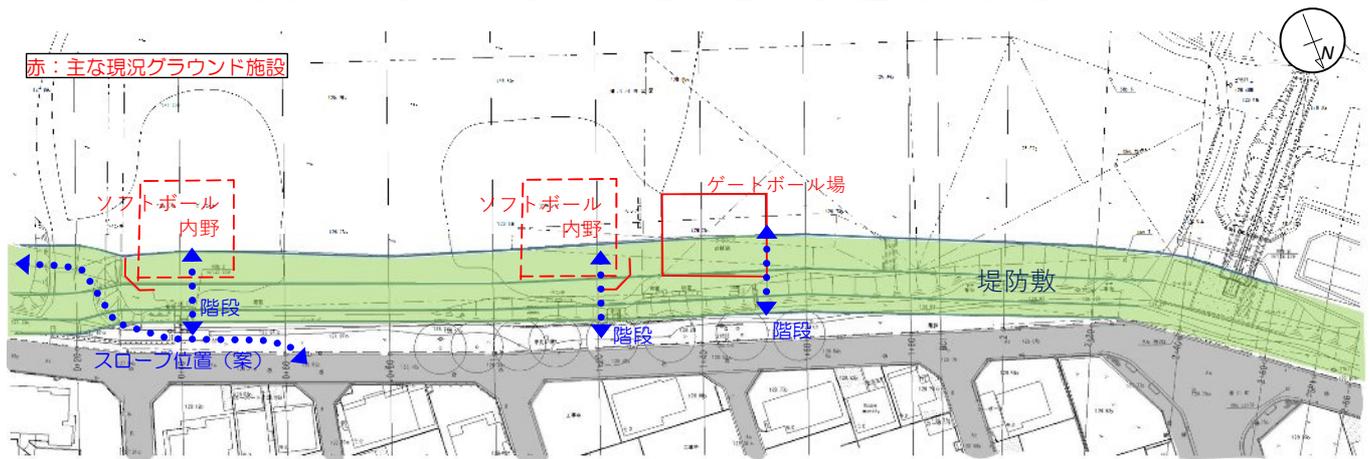
※公園施設は、堤防整備工事完了後に復旧予定です。



堤防整備完了後の河川敷利用

■河川敷の利用

- 堤防整備後も公園（グラウンド）とする見込みです。
- 堤防整備により高水敷幅が減少するため、公園の範囲や施設配置が変わる予定です。



■河川敷へのアクセス

- 河川敷を利用した防災訓練等の実施を考慮し、河川内への車両乗入れを可能にするスロープを設けます。
- 河川敷へのアクセスを目的とした階段を設けます。

※階段位置は現況の階段設置箇所としており、今後の設計の中で変わります。



スロープの例



階段の例

堤防整備工事車両の通行経路（案）



- 工事資機材の運搬車両等は、工事箇所から浅川河川敷内道路を通行し、「はちっこキッチン榑原」付近から一般道を通行します。
- 一般道への出入口には、交通誘導員を配置します。
- 榑原小学校付近の通行予定はありません。

堤防整備工事について

■スケジュール（案）

- 堤防整備工事は、濁水期（11月～5月）の施工を基本とします。
- 1回の濁水期内で工事が完了しないため、2ヶ年にわけて工事を行います。

| | 令和 4年度 | 令和 5年度 | 令和 6年度 | 令和 7年度 | 令和 8年度 |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 堤防整備工事 | 調査・設計 | | 工事 | 工事 | |

■その他

- 工事には低騒音・低振動の機械を用います。

コラム - 河川内の工事

- 川の中で工事を行う時期は？
 - 大雨による出水が少なく、河川流量も少ない時期（=濁水期）に工事を行うのが基本です。
 - 東京都では、濁水期を11月から5月までとしています。
 - 濁水期のみで工事を進めることが難しいため、安全対策をとりつつ通年施工することがあります。